

R3地域協働研究（ステージⅠ）

R03-I-06 「農業法人等の連携による新たな福利厚生システムの構築」

課題提案者 岩手県盛岡広域振興局農政部

研究代表者 宮古短期大学部 平田哲兵

研究チーム員 昇高茂樹・大志田憲・雲然祥子（宮古短期大学部）

今泉元伸・安達雅則・藤原奈美・館山保奈美（盛岡広域振興局農政部）

<要旨>

大規模化に伴い労働力不足が顕在化しているが、他業種に比べ賃金水準が低い農業分野への求職者数は低水準に留まっている。そこで、岩手県農業の雇用力向上を目指し、本県農業の特徴を活かした福利厚生メニューの開発と福利厚生利用システムの開発を目指し研究を実施した。

1 研究の概要（背景・目的等）

盛岡広域振興局管内における農畜産物の産出額は750億円（平成30年）と、平成26年から約100億円増加している。

一方、農業就業人口は、17,435人（平成27年）と、平成22年からの5年間で3,832人（18%）減少し、65歳以上の割合は57.8%から60.6%と一層の高齢化が進んでいることから、多様な担い手の確保・育成を強化する必要がある。

特に、本県農業の中核を担う農業法人では、大規模化に伴い労働力不足が顕在化しているが、他業種に比べ賃金水準が低い農業分野への求職者数は低水準に留まっている。

県では令和元年度、「岩手県農業労働力確保対策推進会議」を設置し、関係機関が連携して、農業労働力確保や農業法人等の雇用力向上の取組を推進している。

農業は自然を相手に食料を生産する仕事であり、他の業種にはない価値を見出し新たに就農するケースも見られるが、法人の経営資源は限られることから、福利厚生の充実までは手が回らないのが実情である。

そこで本研究では、農業の魅力や雇用力を向上させる「農業版働き方改革」ともいえる新たな福利厚生システムの開発を行う。

2 研究の内容（方法・経過等）

本研究での目的を達するため、以下の項目を実施した。

- ▶ 農業法人等における福利厚生の基礎調査を実施する（令和元年度に県農業普及技術課が実施した調査データの補完）。
- ▶ 県立農業大学校生や就農希望者、就農後間もない若手就農者等を対象としたアンケート（聞き取り）調査を実施する。
- ▶ 従業員の利便性を考慮した福利厚生サービス利用システム（スマホアプリ）を試作開発する。
- ▶ 農業大学校学生と岩手県立大学宮古短期大学部学生における福利厚生に対する考え方の比較

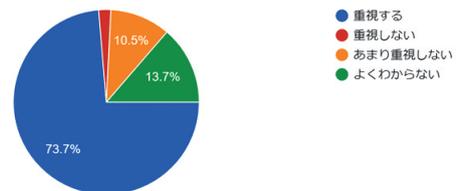
3 これまで得られた研究の成果

県立農業大学校生や就農希望者へのアンケート調査では雇用就農先の選択において、福利厚生は重要な位置を占めることが明らかになった。今回の調査では、県農大の卒業生の約6割が卒業後は農業生産法人への就職を希望する（農業生産法人で知識・技術を習得したのちに独立就農を目指すとの回答も含む）と回答している。

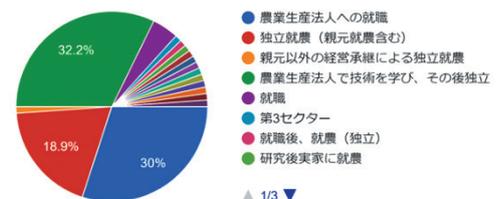
全体の約74%の学生は、就農先を決定する際に、福利厚生を重要視すると回答している。その一方で25%程度の学生は福利厚生を重要視しないあるいは、よくわからないと回答しており、農業生産法人における福利厚生に関する周知が効果的ではない可能性も浮き彫りとなった。

また、県内農業法人等が共有して使用できる福利厚生プラットフォームの試作もおこなった。

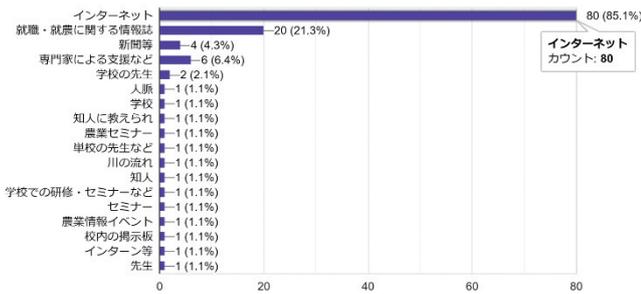
4. 農業生産法人への就職の際に「福利厚生」を重要視しますか？
95件の回答



5. 希望する（または卒業を予定している）就農形態を教えてください。
90件の回答



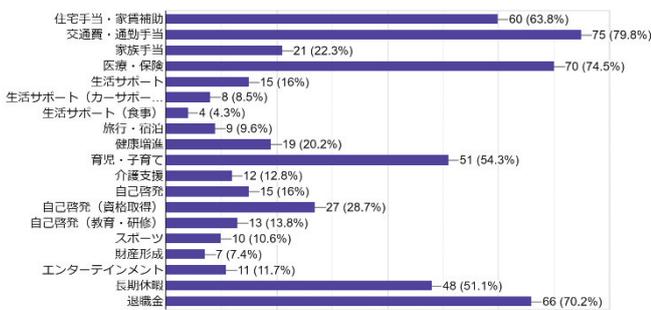
農業生産法人への就職や新規就農についての情報収集をどのように行っていますか？
94件の回答



福利厚生サービス利用システムの開発ではデモ・システムの開発をおこなった。システムは多様な端末に対応できるようにWebシステムとし、利用者、農業生産法人人事担当者、システム管理者が利用できる各メニューを実装した。

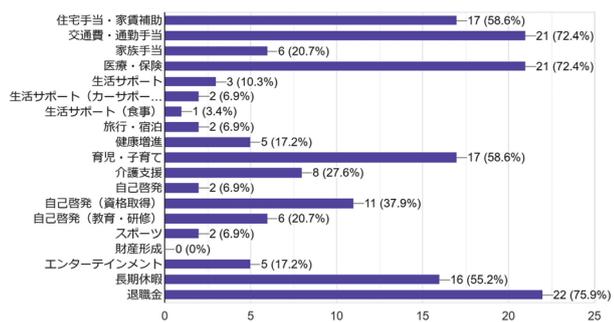
◎農業大学校学生と岩手県立大学宮古短期大学部学生における福利厚生に対する考え方の比較

6.農業生産法人に就職する際にあったらいいなあ...利厚生福利厚生を選択して下さい。(複数回答可)
94件の回答



農業大学校学生が希望する福利厚生メニュー

就職する際にあったらいいなあと思う福利厚生福利厚生を選択して下さい。(複数回答可)
29件の回答



岩手県立大学宮古短期大学部学生が希望する福利厚生メニュー

農業大学校学生と岩手県立大学宮古短期大学部学生、それぞれが希望する福利厚生メニューについては大きな差異は認められなかった。求める福利厚生メニューでは交通費・通勤手当が2群で最も多かった。昨年度の調査では、公共交通機関による通勤が難しい農業分野における特徴と考えられたが公共交通機関による通勤が難しいケースも多い本県の特徴をあらわすものかもしれない。



岩手の農業「おすそ分け」カタログ

ようこそ！ 梶子太郎さん

ログアウト
アカウント情報



所 属	農業生産法人岩手山農園
部 署 名	本店生産部
利用可能ポイント	520 ポイント

新着情報

★「農業生産法人●▲◆農園」さんが、「ブルーベリー収穫体験」をUPしました。
→「ご家族や友人と、楽しいブルーベリー収穫体験は如何ですか？ 収穫後は、ブルーベリー農家の奥様特製ブルーベリージャムの料理教室にも参加できます。」100ポイント



利用可能メニュー一覧

利用可能メニュー

「岩手県産・金色の風/10kg」
「農事組合法人・岩手●▲◆」さん提供

→先着4名様だけの提供となります。送料はご負担願います。
→120ポイント

[詳細](#) [検算リスト](#) [予約](#)

「駅アグリ品！ミニトマト詰め放題！」
「農業生産法人・岩手おいしいトマト」さん提供

→農場まで取りに来て頂ける方限定です。
詰め放題で、おいしいミニトマトをどうぞ

4 今後の具体的な展開

農業法人への基礎調査により、様々な業態における福利厚生の実態と、各法人が提供できるサービス（生産物、体験・交流、宿泊等）が明らかにすることが期待される。岩手県立大学の研究領域やこれまでの実績を生かすことにより、各法人が提供できるサービスの見える化、リスト化を行うとともに、サービスの提供と管理ができるソフトウェアを試作することが期待される。

福利厚生システムの実用化に向けた課題が明らかになるとともに、得られた成果を岩手県農業法人協会や関係機関を通じて県内へ波及されることが期待される。全国的にもこのような事例はなく、先駆的モデルとして、広く発信することが期待される。

本研究では、農業法人それぞれの生産物や商品をお互いに提供しあうことにより、単独ではできなかった多様な福利厚生サービスの提供が可能となり、農業従事者ならではの働く喜びと農業法人の魅力向上につながるものと期待される。

このような取組は全国的にも例がないことから、本研究で得られた成果は、農業関係者の注目を集めるとともに、趣旨に賛同する農業法人の輪が広がることが予想され、さらなるサービスの充実も期待される。

5 その他（参考文献・謝辞等）

本研究にかかるアンケートにご協力頂いた農業大学校学生、岩手県立大学宮古短期大学部学生に感謝の意を表します。